

◆◆◆ 平成19年(2007年)の世界と日本の年平均気温について(速報)

12月13日(木)、気象庁は平成19年(2007年)の世界と日本の年平均気温について速報を発表しました。

それによると、2007年の世界の年平均気温の平年差*は+0.29℃で、統計開始(1880年)以来6番目に高い値となる見込み、また、陸域のみの世界の年平均地上気温の平年差は+0.67℃で、最も高くなる見込み、一方、日本の年平均気温の平年差は+0.85℃で、統計開始(1898年)以来4番目に高い値となる見込み、とのことです。

*平均気温の平年差は平均気温から平年値(1971~2000年の30年間の平年値)を差し引いた値。

【世界の年平均気温】

2007年の世界の年平均気温の平年差は+0.29℃。

世界の年平均気温は長期的には、過去100年間あたり0.67℃の割合で上昇しています。今年は、北半球の中高緯度の陸域を中心に高温となり、陸域における地表付近の気温のみにもとづく世界の年平均地上気温の平年差は+0.67℃で、統計開始(1880年)以来、最も高くなる見込みです。

【日本の年平均気温】

2007年の日本の年平均気温の平年差は+0.85℃。統計を開始した1898年以降4番目に高い値となる見込みです。日本の年平均気温は、長期的には過去100年あたり1.10℃の割合で上昇しており、特に1990年代初め以降、高温となる年が頻出しています。

【平均気温の変動の要因】

近年、世界と日本で高温となる年が頻出している要因としては、二酸化炭素などの温室効果ガスの増加に伴う地球温暖化の影響に、数年~数十年程度の時間規模で繰り返される自然変動が重なったものと考えられます。

世界と日本の年平均気温の順位

世界(全球)			世界(陸上のみ)			日本		
順位	年	平年差(℃)	順位	年	平年差(℃)	順位	年	平年差(℃)
1	1998	+0.37	1	2007	+0.67(速報値)	1	1990	+1.04
2	2005	+0.32	2	1998	+0.64	2	2004	+1.00
3	2006	+0.31	3	2006	+0.58	3	1998	+0.98
	2003	+0.31		2005	+0.58	4	2007	+0.85(速報値)
	2002	+0.31	5	2002	+0.54	5	1994	+0.82
6	2007	+0.29(速報値)	6	2003	+0.50	6	1999	+0.76
7	2004	+0.27	7	2004	+0.45	7	2002	+0.53
	2001	+0.27	8	2001	+0.43		2000	+0.53
9	1997	+0.24	9	1990	+0.39	9	1979	+0.51
10	1990	+0.19	10	1999	+0.38	10	1991	+0.50

2007年の年平均気温の確定値は、2008年2月初めに気象庁から公表されます。速報の詳細および世界、日本の年平均気温、月平均気温は気象庁ホームページにてご覧いただけます。

平成19年(2007年)の世界と日本の天候(速報)のページ;

<http://www.jma.go.jp/jma/press/0712/13a/world2007.html>

世界、日本の年平均気温、月平均気温のページ;

<http://www.data.kishou.go.jp/climate/cpdinfo/temp/index.html>